

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391000108		
法人名	医療法人 孔子会		
事業所名	グループホームまゆの里 綾ユニット		
所在地	熊本県菊池市泗水町福本780番地		
自己評価作成日	令和3年 1月 25日	評価結果市町村報告日	令和2年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和3年 2月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの願いや希望を一つでも多く叶え、実現でき、まゆの里を我が家として感じる事で、自分らしくできる事やわかる事を活かし役割をもって生活していただけるように、職員も寄り添い、助け合いながら共に暮らす喜びの実現を目指しています。今度からは、まゆの里職員が講師となり、勉強会を行っている。また学びを活かし質の高いケアに繋がるよう情報の共有にも力をいれています。日々のあたりまえの暮らしを大切に、尊重されていると実感していただけるようなケアを実現していきたいと考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「共に生き、共に暮らしをつむいでいきます」を理念とし、入居者それぞれの日々の生活を大切にされた様子が窺えました。訪問時にはソファで読書を楽しむ姿や、縫物を楽しむ入居者の日頃の様子も聞かれました。他部署から移動してきた職員の声として、「グループホーム」を知ること、ケアに対する姿勢や入居者への関わり方、声掛けの工夫等、前向きに仕事に臨む姿勢を感じました。また事業所の「入居者の自宅での生活を頭に入れ、その中に刺激を入れる」ケアの取組みを伺うことができました。今年度は感染症予防の面から制限も余儀なくされた中で、職員の育成に力を注がれた様子が聞かれました。何よりも日頃の写真の様子から入居者の笑顔が見え、日々の生活の様子が窺えました。市町村との連携の取り組みや、地域の認知症ケアの質の向上に向けた取り組みなど地域の一翼を担っているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感染予防の為に、朝礼終礼を中止にしていたが11月1日より再開、朝礼と理念を交互に唱和し実践している。	開設に携わった職員で考えられた理念と4つの目標は継続され、事業所のケアの基本となっている。現在でも朝礼時には交互に唱和し、職員は名札に入れ携帯している。職員入職時には管理者より説明し、未経験者にはより丁寧に説明することで事業所の姿勢を共有、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防の為、今まで行っていた行事や交流は中止を余儀なくされた。地域の行事が中止になった等情報交換は、行えている。	年間事業計画には地域行事も組み込まれており、地域・事業所行事それぞれへの参加は住民・入居者・職員共の関わりで継続したつきあいが出来ている。地域で開催されるマラソン大会では職員が住民の一人として参加した例も聞かれた。	開設以来の事業所・管理者の取組みで地域との関係が深く、日常的な関わりである様子が窺えました。今年度は感染症予防の面から行事等の開催が難しい状況でしたが、落ち着いた際には是非この関係を継続して頂きたいと思えます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防の為月1回行っていた、認知症カフェは今年度は開催出来なかった。認知症キャラバンメイトに登録を行っている職員がいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までに会議を4回開催している。その内、3回は感染予防の為、書面上の会議になっている。	今年度は書面による開催を余儀なくされた回数も多かったが、会議開催時には事業所の利用状況や事故報告の他、日頃の活動の様子を伝えている。書面開催の際にも入居者の日頃の様子そのものを掲載した通信を添えている。	例年、会議には入居者家族も参加し、質疑応答の様子も窺えました。今年度は書類による開催となりましたが、このような時期であるからこそ、地域・家族等から意見を得て、事業所の取組みに活かす工夫に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者に出席頂き意見を頂いている。認知症サポーター養成講座へ、講師派遣を行い協力をおこなっている。	法人での認知症カフェ運営、市のカフェ運営手伝い、高齢者地域見守りネットワークへの協力等、日頃から行政との協力関係が継続している。法人全体の活動は行政と連携している取組みも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の勉強会やミーティングにて、身体拘束について勉強会を毎年行っている。身体拘束は行っていない。法人の身体拘束適正化検討員会を3ヶ月1回開催、参加している。	法人の勉強会には管理者が参加し、内容は事業所での掲示及びミーティングで共有している。今年度は事業所内でも学習会を行っている。職員入職の際にはそれぞれに研修を行い、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会で、高齢者虐待防止について学んでいる。日頃のケアに統一に努めている。		

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でも、権利擁護について研修会で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される前に、説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前に、契約書や重要事項説明書の内容について説明し、不明点がないか確認を行っている。介護報酬改定等で、利用料金が増える場合はその都度説明を行っている。	例年、家族会の開催や行事への参加等、家族と関わる機会があるが、今年度は難しい状況であった。家族とは感染症対策の上での面会、通信機器を用いた連絡を行い、面会時には日頃の様子を伝え、意見をj得ている。ケアについても家族からの意見をj得、担当者会議も開催している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を設置している。運営推進会議に、利用者並びに家族に参加してもらい意見をj頂いている。	日頃から管理者は職員と話す機会を持っており、職員は意見や提案を伝えることができる。年2回職員面談の機会に加え、職員の様子によっては随時管理者による声掛けを行い、職員の就業状況・環境等にも配慮し働きやすい職場作りを取組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のミーティングや朝の申し送り時を活かし、職員の意見や提案を聞くようにしている。勤務希望なども、聞き希望に出来るだけ希望に沿うように対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人や事業所で勉強会を行い、やりがいをもち向上心を高める機会を作っている。人事考課制度を取り入れ、面談等を行い助言などを行いやる気に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染予防の為、外部研修が中止になり参加の機会が減ったが、オンラインでの研修には参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書を読んだうえで、ご本人の行動、訴えを聞き対している。安心して生活が出来るような関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、ご家族との面談を行い、困っている事や不安な事、これまでの経緯や思いをしっかりと聞き、今後の信頼関係が築けるようにしている。また、いつでも気軽に相談してもらえるような、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思い、要望を聞き、現状が当ホームの利用に適切であるのかを考え対応している。必要に応じて、居宅のケアマネージャ等と連携し、他のサービスが適切な場合はサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念でもある、「共に生き、共に暮らしをつむいでいきます」が実現できるように、暮らしの中で入居者、職員が共に助け合い、できる事はして頂き、料理や掃除など職員も教わりながら日々の暮らしを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防為、面会制限を行ってきた。夏季は、感染対策を行い、出来限り面会を行ってきた。又、オンライン面会を実施した。家族来所時は情報交換・コミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出話や、過去の話は傾聴するようにしています。現在はコロナ禍であり自由にならないこともありますが、できるだけ安全を確認した上で面会の場を設けたり、誕生日は自宅に帰ったり、関係が途切れないように努めています。クリスマス会をオンラインで家族と中継を行った。	馴染みのある場所への外出、知人面会、家族行事への参加等、これまでの関係継続の支援を行っているが、今年度は難しい状況であった。今年度はオンラインを用いた家族との交流等新たな取組みも行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を考慮し、家事やレクリエーションを一緒に行い助け合う様子が見られる。リビングの席やテーブルのセッティングは、入居者の関係性に注意しながら検討している。		

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、状況を尋ねたり、相談にのったり状況に応じて必要なサービスを紹介したりしている。ホームでの様子を職員に伝え、今までの暮らしが継続できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当がご本人意向を聞きとり、できる限り希望に添うようにしている又、ケアプラン作成にも反映している。	入居者の担当職員を中心として日頃の関わりで意向の把握を行っており、意向の表出が難しい入居者は家族の意見を参考にしている。縫物等趣味の継続も見られ、職員の声掛けの工夫もあり、入居者の意向を大切にしながら日々の生活が送られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報の聞き取りから生活歴や今まで暮らしを確認し、本人や家族からも話しを聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行うと共に、できる事やわかる事に着目し、どのような支援を行えば出来るか、話し合い検討を行っている。又、毎日の申し送りで、一人一人情報伝達を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録に残し、チームで情報交換共有を出来るようにしている。話し合いや必要な課題がある時は、ミーティングで話しあうようにしている。	入居者の日々の様子は記録し、申し送りで共有している。年2回の見直し時や状況変化による見直し時の担当者会議には家族も参加する。今後の介護計画への職員の関わりを見据え、今年度はアセスメントについての勉強会を行った。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間を通して、SOAPで記録を行っている。毎日の様子や入居者の言葉、職員との対応など細やかに記録している。特に全職員で共有すべき出来事は、申し送り記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染予防の為、外出は中々できないができるだけ、本人や家族のニーズには応えられるようにしている。		

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔馴染みの、行きつけの美容室に自分で電話をかけて予約を行い、事業所まで迎えに来てもらって出かけている。今年度は、感染予防の昨年までのようなことは出来なかったが、来年度への課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を確認し、以前のかかりつけ医を希望される場合は継続している。感染予防のために、病院側と受診時間を調整したり、車の中で診察してもらうなどの協力依頼を行い実施してきた。又、往診も行っている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。従来、通院は家族の協力を得ていたが、現在は職員が同行している。感染症予防の面から車の中での診察もあった。内科・歯科は往診もある。受診により薬の変更があった際には職員にも説明し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった時だけでなく、普段からホーム内の看護職と連携し相談、対応ができるようにしている。異常あれば家族に連絡、相談しかかりつけ医や必要な病院への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの様子を情報提供している。入院中は職員が面会に行ったり、家族や病院の看護師や相談員と連絡をとり、情報交換や今後について相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「利用者の重度化及び看とり介護に関する指針」を説明している。今年度は、看取りの対象利用者はいなかった。今後、重度化や終末期になった場合は本人、家族と話し合い連携しながら、支援していきたい。	入居前に重度化や終末期に向けた方針を家族へ説明を行っている。実際にその時を迎えた際には家族・医療機関等関係者で連携を持ち支援を行う。現状、医療機関への入院や状態に応じた施設等への住み替えを希望される例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修会で毎年1回、心肺蘇生法とAEDについて学んでいる。急変時はマニュアルに添って、対応している。事業所内に、AEDを昨年設置した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の事業所と連携し、消防署立会いのもと昼・夜間想定避難訓練を実施している。法人内の備蓄他、ホーム内にも備蓄している。今後地域との連携も図りながら取り組んでいきたい。	火災避難訓練は法人内事業所の協力のもと事業所単体で行っている。地域から避難訓練への協力依頼もあり、法人で対応している。以前、自然災害が発生した際には法人で地域からの避難を受け入れ、浴場開放も行った。	避難訓練は事業所単体での実施であるものの、隣接する法人事業所の協力のもと行われています。予測を超える自然災害では職員での避難・対策が必要となることも考えられるため、グループホーム職員のみでの訓練も必要と思われます。

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーが保てるように、居室は入居者がカギをかけられるようになっている。人生の先輩として尊重し、丁寧な言葉かけや対応をするようにしている。	生活の中での職員の声掛けにも入居者一人ひとりを尊重した対応を行っている。職員の声掛けが気になる際には管理者や主任から都度指導し、職員育成にも取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、飲み物の選択や入浴時間など利用者が自己決定できるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握しその人らしく穏やかに生活できるのか、また入居者に聞きながら、できるだけ叶えられるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、自分が着たいものを選んでもらって女性性は、自分の化粧品でお化粧をしているまた、外出や行事があるときは、おしゃれを着てもらい、スカーフやアクセサリー、帽子などを身につけて出かけている。行事時に、背広を着る男性利用者もいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、盛りつけ、配膳や下膳などできる事をしてもらっている	厨房担当職員による献立で手作りの食事を提供している。食事作りから片付けまでには入居者の役割作りの場面も見られる。食事前にはテレビを消し、入居者の「頂きます」で食事が始まる。「以前より食事に時間がかかるようになった」等、日々の様子の気づきも共有している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は、個別の必要水分量を出して毎日把握して。本人の希望や、状態に応じて食形を変更したり、好みの飲み物に変更したりしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、口腔ケア後は口腔内の観察を行い、夜間は義歯を預かっている。治療が必要な方や、定期的なメンテナンスをされてか方もいる。			

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の、排泄パターンをアセスメントしその人にあった、パットを検討している。可能限り、トイレで排泄出来るようにしている。	入居者それぞれの排泄パターンは職員間で共有している。失禁が増えた、車椅子利用になった等入居者の状況変化が見られる際にはアセスメントし、状況にあった支援を行っている。「排泄介助の基本手順」を定め、事業所の基本としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	さつま芋などの食物繊維を味噌汁に入れたり、牛乳やヨーグルトを勧めたりして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は温泉を使用し、入りたいときにはいれるように、無理強いはいしない様に希望にそって入浴ができるようにしている。また、一人ひとりのADLに合わせ、リフト浴や檜浴なのかを使い分けるようにしている。	2ユニットに対し温泉が利用できる機械浴と檜風呂があり、入居者の身体状況により使い分けを行い、週3回の入浴を基本としている。着替えの準備から入浴終わりまで入居者の出来ることを大切にケアを行っている。温かい時期には玄関傍の足湯も楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファ、畳の間など、思いの好きな場所で休んだり、昼寝をしたりゆっくりと、すごしてもらっている。夜間は衣類、寝具の調整、室温湿度の調整を行い、気持ちよく眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット毎に、ファイリングを行い職員が見られるようにしている。排便の状態が申し送りされ、状態に合わせて調整がされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台拭き、調理の手伝い、洗濯干し、たたみ、できることを無理なく行っていたいでいる。花も水やりが日課の方がおり、進んで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為、外出は中々できなかったが近隣を散歩したりして、地域の方とすれ違い様に挨拶を行ったりできている。	例年、計画による毎月ユニット毎での外出や行事参加、家族や職員との個別外出支援等、外出の機会が多いが、今年度は難しい状況であったため、近隣の散歩を日常的に行った。例年誕生日には希望の場所への外出も行っており、入居者の趣味等を楽しむ様子もあり、家族にも好評であった。	

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいはホームで預かり、買い物時自由に使えるようにしている。金銭を手元に持っていたほうが、落ち着かれる方には、家族理解のもと、少額を本人が持たれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が、あれば電話を取り次いで話していただいたり、手紙を郵送したりしている。携帯電話を所有している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地中熱システムを導入し、快適な室温・湿度が保てるようにしている。季節の花を飾ったり、壁紙に季節の飾りを、入居者と作り飾ったり、季節を感じられる環境作りを行っている。テレビはみたい方がいる時は、つけているが、誰も見ていない時は消し、不快な刺激とならないようにしている。	花壇やプランターで育てられている季節の花に迎えられ玄関を入ると、明るく穏やかな空気の中、ソファで読書をしたり、入居者同士でくつろぐ姿があつたりと思いいに過ごす姿が見られる。訪問時にも職員から入居者への声掛けが良く見られ、入居者の居心地のよい空間、時間作りへの取組みが見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思いいに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集うダイニングテーブルの他に、窓際のスペース、ソファ、畳などがあり、好きな場所で、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、タンスやソファなどを持って来られたり、家族の写真や自宅で育てた花を飾ったり、一人ひとりが落ち着いて、過ごせるようにしている。	ベッドと筆筒が備えられた居室は畳とフローリングのタイプがある。日々の様子の写真も掲示され、持ち物には家族の関わりの様子が見られる。異食等、入居者の状況により安全にも配慮している。廊下には専用の保温器のなかに清拭用のタオルを常時備えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで生活動線には、手すりを設置している。整理整頓をして安全に生活で出来るように配慮している。畳で洗濯物をたたんだり、椅子に座って調理の手伝いができるように低めの配膳台を備え付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391000108		
法人名	医療法人 孔子会		
事業所名	グループホームまゆの里 絹ユニット		
所在地	熊本県菊池市泗水町福本780番地		
自己評価作成日	令和3年 1月 25日	評価結果市町村報告日	令和2年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和3年 2月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感染予防の為に、朝礼終礼を中止にしていたが11月1日より再開、朝礼と理念を交互に唱和し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防の為、今まで行っていた行事や交流は中止を余儀なくされた。地域の行事が中止になった等情報交換は、行えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防の為月1回行っていた、認知症カフェは今年度は開催出来なかった。認知症キャラバンメイトに登録を行っている職員がいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までに会議を4回開催している。その内、3回は感染予防の為、書面上の会議になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者に出席頂き意見を頂いている。認知症サポータ養成講座へ、講師派遣を行い協力をおこなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の勉強会やミーティングにて、身体拘束について勉強会を毎年行っている。身体拘束は行っていない。法人の身体拘束適正化検討員会を3ヶ月1回開催、参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会で、高齢者虐待防止について学んでいる。日頃のケアに統一に努めている。		

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でも、権利擁護について研修会で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される前に、説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前に、契約書や重要事項説明書の内容について説明し、不明点がないか確認を行っている。介護報酬改定等で、利用料金に変化する場合はその都度説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を設置している。運営推進会議に、利用者並びに家族に参加してもらい意見を頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のミーティングや朝の申し送り時を活かし、職員の意見や提案を聞くようにしている。勤務希望なども、聞き希望に出来るだけ希望に沿うように対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人や事業所で勉強会を行い、やりがいをもち向上心を高める機会を作っている。人事考課制度を取り入れ、面談等を行い助言などを行いやる気に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染予防の為、外部研修が中止になり参加の機会が減ったが、オンラインでの研修には参加している。		

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書を読んだうえで、ご本人の行動、訴えを聞き対している。安心して生活が出来るような関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、ご家族との面談を行い、困っている事や不安な事、これまでの経緯や思いをしっかりと聞き、今後の信頼関係が築けるようにしている。また、いつでも気軽に相談してもらえるような、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思い、要望を聞き、現状が当ホームの利用に適切であるのかを考え対応している。必要に応じて、居宅のケアマネージャ等と連携し、他のサービスが適切な場合はサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念でもある、「共に生き、共に暮らしをつむいでいきます」が実現できるように、暮らしの中で入居者、職員が共に助け合い、できる事はして頂き、料理や掃除など職員も教わりながら日々の暮らしを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防為、面会制限を行ってきた。夏季は、感染対策を行い、出来限り面会を行ってきた。又、オンライン面会を実施した。家族来所時は情報交換・コミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出話や、過去の話は傾聴するようにしています。現在はコロナ禍であり自由に出来ないこともありますが、できるだけ安全を確認した上で面会の場を設けたり、誕生日は自宅に帰ったり、関係が途切れないように努めています。クリスマス会をオンラインで家族と中継を行った。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を考慮し、家事やレクリエーションを一緒に行い助け合う様子が見られる。リビングの席やテーブルのセッティングは、入居者の関係性に注意しながら検討している。		

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、状況を尋ねたり、相談にのったり状況に応じて必要なサービスを紹介したりしている。ホームでの様子を職員に伝え、今までの暮らしが継続できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当がご本人意向を聞きとり、できる限り希望に添うようにしている又、ケアプラン作成にも反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報の聞き取りから生活歴や今まで暮らしを確認し、本人や家族からも話しを聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行うと共に、できる事やわかる事に着目し、どのような支援を行えば出来るか、話し合い検討を行っている。又、毎日の申し送りで、一人一人情報伝達を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録に残し、チームで情報交換共有を出来るようにしている。話し合いや必要な課題がある時は、ミーティングで話しあうようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間を通して、SOAPで記録を行っている。毎日の様子や入居者の言葉、職員の対応など細やかに記録している。特に全職員で共有すべき出来事は、申し送り記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染予防の為、外出は中々できないができるだけ、本人や家族のニーズには応えられるようにしている。		

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔馴染みの、行きつけの美容室に自分で電話をかけて予約を行い、事業所まで迎えに来てもらって出かけている。今年度は、感染予防の昨年までのようなことは出来なかったが、来年度への課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を確認し、以前のかかりつけ医を希望される場合は継続している。感染予防の為に、病院側と受診時間を調整したり、車の中で診察をしてもらうなどの協力依頼を行い実施してきた。又、往診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった時だけでなく、普段からホーム内の看護職と連携し相談、対応ができるようにしている。異常あれば家族に連絡、相談しかかりつけ医や必要な病院への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの様子を情報提供している。入院中は職員が面会に行ったり、家族や病院の看護師や相談員と連絡をとり、情報交換や今後について相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「利用者の重度化及び看とり介護に関する指針」を説明している。今年度は、看取りの対象利用者はいなかった。今後、重度化や終末期になった場合は本人、家族と話し合い連携しながら、支援していきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修会で毎年1回、心肺蘇生法とAEDについて学んでいる。急変時はマニュアルに添って、対応している。事業所内に、AEDを昨年設置した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の事業所と連携し、消防署立会いのもと昼・夜間想定避難訓練を実施している。法人内の備蓄他、ホーム内にも備蓄している。今後地域との連携も図りながら取り組んでいきたい。		

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーが保てるように、居室は入居者がカギをかけられるようになっている。人生の先輩として尊重し、丁寧な言葉かけや対応をするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、飲み物の選択や入浴時間など利用者が自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握しその人らしく穏やかに生活できるのか、また入居者に聞きながら、できるだけ叶えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、自分が着たいものを選んでもらってる女性には、自分の化粧品でお化粧をしているまた、外出や行事があるときは、おしゃれを着てもらい、スカーフやアクセサリー、帽子などを身につけて出かけている。行事時に、背広を着る男性利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、盛りつけ、配膳や下膳などできる事をしてもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は、個別の必要水分量を出して毎日把握してる。本人の希望や、状態に応じて食形を変更したり、好みの飲み物に変更したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、口腔ケア後は口腔内の観察を行い、夜間は義歯を預かっている。治療が必要な方や、定期的なメンテナンスをされてか方もいる。		

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の、排泄パターンをアセスメントしその人にあった、パットを検討している。可能限り、トイレで排泄出来るようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	さつま芋などの食物繊維を味噌汁に入れたり、牛乳やヨーグルトを勧めたりして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は温泉を使用し、入りたいときには入れるように、無理強いほしない様に希望にそって入浴ができるようにしている。また、一人ひとりのADLに合わせ、リフト浴や檜浴なのかを使い分けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファ、畳の間など、思い思いの好きな場所で休んだり、昼寝をしたりゆっくりと、すごしてもらっている。夜間は衣類、寝具の調整、室温湿度の調整を行い、気持ちよく眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット毎に、ファイリングを行い職員が見られるようにしている。排便の状態が申し送りされ、状態に合わせて調整がされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台拭き、調理の手伝い、洗濯干し、たたみ、できることを無理なく行っていただいている。花も水やりが日課の方がおり、進んで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為、外出は中々できなかったが近隣を散歩したりして、地域の方とすれ違い様に挨拶を行ったりできている。		

グループホームまゆの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいはホームで預かり、買い物時自由に使えるようにしている。金銭を手元に持っていたほうが、落ち着かれる方には、家族理解のもと、少額を本人が持たれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が、あれば電話を取り次いで話していただいたり、手紙を郵送したりしている。携帯電話を所有している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地中熱システムを導入し、快適な室温・湿度が保てるようにしている。季節の花を飾ったり、壁紙に季節の飾りを、入居者と作り飾ったり、季節を感じられる環境作りを行っている。テレビはみたい方がいる時は、つけているが、誰も見ていない時は消し、不快な刺激とならないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集うダイニングテーブルの他に、窓際のスペース、ソファ、畳などがあり、好きな場所で、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、タンスやソファなどを持って来られたり、家族の写真や自宅で育てた花を飾ったり、一人ひとりが落ち着いて、過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで生活動線には、手すりを設置している。整理整頓をして安全に生活で出来るように配慮している。畳で洗濯物をたたんだり、椅子に座って調理の手伝いができるように低めの配膳台を備え付けている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームまゆの里

作成日 令和 3年 3月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍の影響で運営推進会議を、書面上の会議で行っている。ホーム側からは情報を発信しているが委員の意見が届きにくい。	推進委員の意見が、事業所側へ届くように、運営推進会議の開催をおこなう。	・可能な方は、オンラインで参加して頂く。 ・書面郵送時に、アンケート用紙を同封して、回答してもらう。	6ヶ月
2	10	感染予防の為に、家族と本人が会えない状況が続いている。情報共有が、できにくい状況。	利用者、家族の意見が反映できるようにする。	・今後も、オンライン面会など継続していく。 ・担当者よりの、情報の発信。	6ヶ月
3	35	法人内で協力をして、火災訓練は出来ている。予想を超える地震や、洪水時が発生した場合の訓練対策が不十分。	予想を超える災害では、法人内の他の事業所の応援は期待できない可能性が高い為、防災委員会を中心として、まゆの里独自の対策検討が必要。	・まゆの里独自での、訓練の実施。 ・必要物品の確保。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。